

さくら第543号

令和 7年3月

さくら

発行所 さくらそろばん
 発行者 平瀬 重雄
 春江町境 17-7・TEL51-1337
 hirase@mx2.fctv.ne.jp

本
氣
なぐでもいからす
本気でやうてくらん
本気でやれば
たのしいから
本気でやれば
つかれないから
つかれても
つかねが
さややかたから
みつゝを

『旅のお土産で知る楽しみ』

旅行に行く時の楽しみは名所旧跡を訪れ古い歴史の建造物やその地方ならではの文化的な事を体験することなどいろいろあります。

そのような中でも何ととっても珍しい食べ物やお土産に触れて買い求めるのが楽しく、風景などの印象は薄くなっても、あの土地で、誰と何を食べたか、そして買ったお土産を見るたびにその時の様子を思い出したりします。

誰にわたすかを決めて何を買おうかとあれこれ選ぶのも楽しいものです。

ある日、知人から福砂屋のカステラをいただき賞味しているおり、カステラについて詳しく知りたいと思い調べてみました。

長崎での名産品といえば定番の「カステラ」があり、有名な店に「福砂屋」があります。1624年(寛永元年)創業というから400年余り昔から続いています。

前年の1623年に徳川家光が三代将軍となり、キリシタン布教の禁止を強化し、スペイン船の来航を禁止して国交も断絶した時期です。1633年には第一次鎖国令を出し、3年後には長崎の出島が完成したといえます。

福砂屋のパンフレットには、ポルトガルのフランシスコ会の神父よりカステラ製造を伝授された。その原名はカストルボルといい、カストルとはスペインの州の名前で、ボルは菓子の意味とのことです。

福砂屋は創業当時、貿易商として砂糖、米など色々な品目を扱っていたと思われます。その当時砂糖は、中国、福州が産地で、福州船で長崎に運ばれていました。砂糖を扱って

いたことから、福州の「福」と砂糖の「砂」が屋号になって「福砂屋」として続いています。

中国の福州は福建省の首都で人口780万人で面積は長崎県の29倍。台湾に近い位置にあり、1980年に長崎県と福州は友好都市締結を交わしています。

ちなみに日本国内で最多の人口は東京都が約970万人で横浜市が380万人です。

カステラという名前の由来には諸説あります。スペインの当時の王国カスティリアがあり、ポルトガル語ではカスティリアをカステラと発音したといわれています。

カステラといえば、底についている砂糖、ザラメがあります。ザラメ糖は焼いて時間がたつにつれ、生地に浸透することでしっとり感を長く保つための先人の知恵です。今のような宅急便のない時代、船で日数を要して運んだ当時の保存方法でもありました。

ザラメ糖(サトウキビが原料)のジャリつとした食感が好きな人は製造から日がたっていないものを、しっとりした食感を好むなら賞味期限に近いものを選んだほうがいいということです。

長崎カステラを名乗るには、長崎県菓子工業組合が商標権利を所有しているので、組合から許可を得た長崎県に住所がある企業だけが使用できます。

また、長崎カステラとは長崎式のレシピや製法で作られたカステラの事を指定しています。

有名な店には、1624年創業の福砂屋、1681年創業の松翁軒、1900年創業の文明堂があり長い歴史を感じます。

福砂屋の商標は「蝙蝠・コウモリ」です。コウモリは蚊やガなど害虫を食べてくれる益獣で、「鳥獣管理保護法」で保護されており駆除することは禁止されています。蝙蝠の中国語発音は「ビエンフー」と発音し、日本語の福に変わると同じ発音で慶事の意味があります。

お土産のカステラからその当時の国内外の出来事や社会情勢などの一端を垣間見ることができ、楽しくなります。さあ、次はどんな事に巡り合えるかが待ち遠しくなります。

ひるみ 昼見ゆる 星うらうらと 霞かな かすみ

季語きご 霞かすみ

あくたがわりゅうのすけ
芥川龍之介

ひる　み　ほし　うらら　み　かす　そら
 昼に見える星のように、麗らかに見える霞んだ空であることだ。